

平成 22 年度第 3 回 IODP 部会執行部会議事録(案)

日時:2010 年 9 月 15 日(水)14:00~18:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 セミナー室 A

出席者:

執行部:山崎俊嗣(産業技術総合研究所)、安間 了(筑波大学)、芦 寿一郎(東京大学)、
池原 実(高知大学)、林 広樹(島根大学)、平野直人(東北大学)、松本 剛(琉球大学)、
森田澄人(産業技術総合研究所)、山本啓之(海洋研究開発機構)、山本正伸(北海道大学)

オブザーバー:

文部科学省海洋地球課:倉本真一、酒井佑介、肥田慎司
海洋研究開発機構:星野利彦
事務局:菊田宏之、梅津慶太

欠席者:沖野郷子(東京大学)、坂本竜彦(海洋研究開発機構)、末次大輔(海洋研究開発機構)、
高澤栄一(新潟大学)

議事次第(案)

1. プログラムリニューアルについて[山崎部会長]

- New Science Plan資料 1-1~1-3
- SAS 改組資料 1-4~1-6

2. SPC・PMO 会議報告[山崎部会長]資料 2

3. IODP 乗船研究費について[事務局]

4. J-DESC 法人化について[山崎部会長]

5. IODP 掘削航海関連[事務局]

6. 国内専門部会・国際 SAS パネル報告[各担当者・事務局]

- EDP/技術開発推進専門部会資料 3-1、3-2
- SSP/事前調査検討専門部会資料 4
- STP/科学計測専門部会資料 5
- SSEP資料 6

7. J-DESC 活動

- 会計報告[平野委員、末次委員]
- 会員提案型活動経費報告[事務局]資料 7
- コアスクール(微化石、泥水検層、古地磁気コース)開催報告資料 8-1、8-2
- JpGU セッション(地球掘削科学)
- 成果公表助成
- J-DESC ニュースレター vol. 4
- J-DESC レクチャー&サイエンススクール[事務局、坂本委員]

8. その他

- 次回開催日

配布資料

資料 1-1 New Science Plan Draft (抜粋)	資料 3-2 新体制下の技術開発系部会のあり方
資料 1-2 Invitation to Comment	資料 4 #13SSP 会議報告書
資料 1-3 Guide to Comment	資料 5 #11STP 会議報告書
資料 1-4 コメント 1(井龍氏/古環境)	資料 6-1 #14SSEP 会議報告書
資料 1-5 2013 年以降の体制、移行	資料 6-2 SSEP への追加メンバーについて
資料 1-6 #10SASEC 会議報告書	資料 7 H22 年度分採択会員提案型活動経費
資料 2 #16SPC 会議報告書	資料 8-1 微化石コース報告書
資料 3-1 #11EDP 会議報告書	資料 8-2 泥水検層コース報告書

議事録(案)

1. プログラムリニューアルについて[山崎部会長]

山崎部会長より資料 1-1~1-3、1-5 に基づき、New Science Plan と SAS 改組について説明がなされた。

•New Science Plan資料 1-1~1-3

- ・ 深海掘削の将来 WS で出た意見としては、
 - 1) NSP の位置づけを Preface に明記すべき(現行の ISP とは異なり、プロポーザル作成のバイブル的なものではないものになるのであれば、その旨を書くべき)である。
 - 2) Executive summary が単に要約になっており、単調である。全体を通しての要約(全体の幹となるもの)を書くべき。

実行項目(1009-01):以上の意見(2については、水と炭素循環に関して一例として文案を送る)とポジティブな意見(資料 1-4 にあるコメントをもとにする)を J-DESC としてコメントする。(実行者:山崎部会長、安間部会長補佐、その他)

•SAS 改組(プログラムの枠組みおよび移行の取り扱いについて)資料 1-4~1-6

- ・ 2011 年 6 月新システム稼働を目指して議論が進んでいる(IWG+が提案しているスケジュール通りにほぼ進んでいる)。
- ・ SSEP, SPC, SASEC の 3 層構造を、PEP (Proposal Evaluation Panel), SEA (Science Executive Authority) の 2 層構造とする。
- ・ 早い段階でハイレベルな提案を厳選するため、プロポーザルの Nurturing は 1 度限りに制限される。それ以降は差し戻しとなる。
- ・ サービスパネルはより簡素化される。
- ・ プログラムの最高意思決定機関として PGB (Program Governing Board)を設置する案がある。メンバーは Funding Agency や IO、PEP 議長、SEA 議長など。
- ・ ライザープロポーザルや複数の航海にわたる大型のプログラムは早い段階から IO が関与し、ワークショップを開催しながらプロポーザルを成熟させる仕組みを作る。
- ・ 現在 SAS に約 100 のプロポーザルがある。post-2013 のプログラムには、最初の数年のうちに掘削される可能性が高い優れたプロポーザルのみを送り、他はプロポーネントに返される。今年 11 月の SSEP で、SSEP に残るプロポーザルの優先度判断を行い、それをもとに、来年 3 月の SPC で SPC と OTF に残るものとあわせて post-2013 へ送るものを決定する。
- ・ 新プログラムの名称を募集している。9/9、10 に Naming WS (Oceanleadership 主催)を日本で開催した。名称の原案は 10 月中に示されるという話がある。

2. SPC・PMO 会議報告[山崎部会長]資料 2

山崎部会長より、標記の件について報告がなされた。

•SPC 会議

- ・ 「ちきゅう」のスケジュールとして、2013 年までに NanTroSEIZE の超深部掘削を実施する。今年度は Exp. 331 DEEP HOT BIOSPHERE、NanTroSEIZE、CPP(下北微生物)
- ・ JR は FY12 に Mediterranean Outflow、Cascadia (Contingency として Lesser Antilles)、South Alaska Margin が承認された。FY13 は西太平洋 (IBM、Asian Monsoon、Bengal Fan) の後、インド洋で掘削を行う案が示されているが正式承認は後の会議にて行われる。
- ・ MSP は 2013 年までにあと 1 航海。候補として 6 つ挙がっており、そのうち 548-Full3 Chicxulub と 716-Full2 Hawaiian Drowned Reefs については、FY11 に事前調査を行う。

•PMO 会議

・ ECORD サマースクール

- ・ 今年は 3 か所(ブレーメン、カナダ、ウルビノ(イタリア))で開催した。ウルビノは大部分が ECORD とは別予算で開催。

- ・ ECORD ではマッチングファンドとして 2 万ユーロの予算が組まれている。今年はブレーメンに 1 万ユーロ補助。
- ・ 基本的にはホスト立候補制。ホストもお金を出し、運営。ECORD からの資金はほぼ全額講師の旅費などに充てられている。ホストは会場費などを提供。
- ・ SAS 改組に関して、2011 年の 6 月までにはメンバーを決定する必要があり、Term of Reference が作成途中であり、年度末には人選する必要がある。
- ・ PEP の議長は多くの Effort が望める人物を SEA が(要確認)選考する。
- ・ 中国の掘削船建造は、まだ計画段階。

3. IODP 乗船研究費について[事務局]

事務局より標記の件について報告がなされた。

- ・ JAMSTEC 内での関係部署との調整(お金の渡し方や他の船舶に乗船する研究者との処遇の違いの説明)が済んでいない。
- ・ 年度の半分が過ぎようとしており、今年度に限り、やり方を変えることも考えている。そのために、どのようなことにお金を使いたいかについてアンケートを行う必要がある。

提言項目(1009-02):本件に関して、早急な実現を要望する。また、そのための協力を行うための準備がある。
(提言先:地球掘削科学推進委員会)

4. J-DESC 法人化について[山崎部会長]

山崎部会長より、標記の件について説明がなされた。

- ・ 法人化の議論は今年度の活動事項ではあるが、議論は進んでいない。

合意項目(1009-03):陸上掘削部会と合同のチームを作り、議論を始める。IODP、陸上掘削両部会よりそれぞれ 2 名 + 有識者若干名。IODP 部会側メンバーとして芦氏、森田氏をアサインする。チームのタスクとしては、メリット・デメリットをリストアップした上で法人化するかどうかを判断し執行部に答申する。外部有識者については後ほど決定する。

5. IODP 掘削航海関連[事務局]

事務局および山崎部会長より説明がなされた。

- ・ Exp. 336 Mid-Atlantic については必要な専門を USIO に問い合わせ中。2 名の乗船者を募集中。
- ・ Exp. 333 NanTroSEIZE Input 2 は J-DESC 枠は埋まっているが、追加で 1 名を募集中。分野は石灰質ナンノ、古地磁気、有機地球化学のいずれか。
- ・ Mediterranean Outflow と Southern Alaska Margin の Co-chief 候補者を探している。相応しい人がいれば推薦してほしい。

6. 国内専門部会・国際 SAS パネル報告[各担当者・事務局]

・EDP/技術開発推進専門部会.....資料 3-1、3-2

森田委員より報告がなされた。

- ・ 7 月にサンタフェで EDP 会議が開催された。
- ・ Technology Roadmap ver. 4 が承認された。
- ・ ED proposal のレビューを行った。
- ・ 専門部会会議では SAS 改組に関する EDP からの意見をまとめた(資料 3-1 参照)。
- ・ 執行部にて SAS 改組の議論を行うことについて森田委員から連絡したところ、本格的に議論していただいた。議論の結果に関する素案は資料 3-2。
- ・ 現段階での結論としては、現専門部会のマンドートのうち、(3)パネルへの対応以外は今後にも必要になるであろうというもの。

合意事項(1009-05):これからも専門部会について執行部で議論を続ける。

・SSP／事前調査検討専門部会.....資料 4

芦委員より報告がなされた。

- ・ SSP が 8 月にフランスのブレストで開催され、各プロポーザルのサイトサーベイについて議論を行った。
- ・ 専門部会会議では日本から提案されているプロポーザルの事前調査について検討を行った。
- ・ SAS 改組に伴う専門部会の改組等の姿について、年度ではなく年内に知らせてほしい。

合意事項(1009-06):現状、SAS 改組に伴い、SSP がなくなる可能性は低いことや、我が国から提案のプロポーザルのサイトサーベイに関してアドバイスする役割は今後も必要になることを鑑みれば、事前調査部会は存続していくべきと考える。

・STP／科学計測専門部会資料 5

池原委員より報告がなされた。

- ・ 8 月にジュネーブで STP 会議が開催された。
- ・ 全部で 28 の Consensus Statement を決議し、12 の Action Item を取りまとめた。
- ・ SAS 改組については、STP は存続するべきであるとの結論。

・SSEP資料 6

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ 次回会議で次期プログラムに引き継ぐプロポーザルを選ぶため、すべてのアクティブプロポーザル(65 個)のレビューを行う。
- ・ このため、SSEP 委員のみでは作業量が多すぎるため、これまでの経緯を知る SSEP 経験者に追加で出席をしてもらいたいとの依頼が SSEP co-chairs からあった。
- ・ J-DESC から名前が挙がっているのは高井 研氏、山本啓之氏、西 弘嗣氏、田村芳彦氏、高澤栄一氏。
- ・ 田村氏は SSEP 会議期間中乗船しているため、出席は不可能。木村純一氏が適任。

実行項目(1009-07):木村氏に次回 SSEP 会議@ポートランドへの出席をお願いする。(実行者:安間部会長補佐)

7. J-DESC 活動

・会計報告[平野委員、末次委員]

平野委員および山崎部会長より報告がなされた。

- ・ 会費は半分程度集まっている。
- ・ 特に問題は発生していない。

山崎部会長より事務処理についての手続き方法について説明がなされた。

合意事項(1009-08):会計書類の受取先は CDEX の J-DESC サポート宛とする。様式のチェックは会計担当で行う。

・会員提案型活動経費報告[事務局]資料 7

事務局および安間部会長補佐より報告がなされた。

- ・ 現在までに 5 件採択され、予算額をオーバーした金額分を採択しているが、未執行分もある。
- ・ 今年度は制度を変更して最初の年であるため、予算オーバーはある程度仕方がない部分もあるが、来年度以降はシンポジウムなどに関しては予算の上限を設ける等が必要かもしれない。

・コアスクール(微化石、泥水検層、古地磁気コース)開催報告.....資料 8-1、8-2

各資料に基づき、事務局および山崎部会長より報告がなされた。

- ・ 微化石コース

- ・ 8月4日～6日に名古屋大学で開催。
- ・ 参加者は18名。
- ・ 泥水検層コース
- ・ 8月17日、18日に石油資源開発株式会社技術研究所で開催。
- ・ 参加者は7名
- ・ 古地磁気コース
- ・ 8月27～29日に高知コアセンターで実施
- ・ 参加者11名

・JpGU セッション(地球掘削科学)

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ セッション提案が開始されている(10/26〆切)。

合意項目(1009-09): 来年の地球掘削科学セッションのコンビーナとして、執行部から沖野委員にお願いする。

実行項目(1009-10): その他のコンビーナを選出する。陸上掘削部会から1名、その他分野として選出。(実行者:山崎部会長、安間部会長補佐、その他)

・成果公表助成

事務局より説明がなされた。

- ・ 前回募集よりほぼ1年経過するため、第3回目の募集を行う必要がある。

実行項目(1009-11): 募集を開始する。申請のチェックを行う委員を選出するため、前回の委員を山崎部会長に知らせる。(実行者:事務局)

・J-DESC ニュースレターvol. 4

事務局より説明がなされた。

- ・ 前号よりほぼ1年経過するため、新号の準備を行う必要がある。
- ・ 考えられる案件としては、研究費支援、New Science Plan、法人化などがある。

実行項目(1009-12): 次回までに掲載する案件を考える。(実行者:執行部委員)

・J-DESC レクチャー&サイエンススクール[事務局]

事務局より標記の件について報告がなされた。

- ・ サイエンススクールについては目に見える進展はない。
- ・ レクチャーについては3名の執行部の講師登録が済んでいる。
- ・ レクチャーについては今年度実績を作りたい。

実行項目(1009-13): 講師登録のリマインダーを執行部に送る。また、SAS 上位委員会の委員にも登録してもらうため、リストを山崎部会長に送る。登録状況を逐次山崎部会長に知らせる。(実行者:事務局)

8. その他

・New Science Plan について

肥田氏から50pバージョンの対象はFunding Agency向けではなく、サイエンティスト・Funding Agency両方向けである旨が報告された(NSFに確認済み)。

・次回開催日

10月中旬開催で調整する。